

令和7年度京都府立洛北高等学校学校経営計画（スクールマネジメントプラン）年度末評価

A：十分達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：ほとんど達成できなかった

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		
組織・運営	各分掌・教科間の連携を深め、共通理解のもと組織的な学校運営を図る。	各種会議において、重点とする目標や指導の在り方等について、教職員の共通理解をはかり、組織的に取組を進める。	A	A	A
	学校の危機管理について平素から教職員の意識を高め、安心・安全な学習環境の保障に努める。	研修会等をととして平素から危機管理に関しての意識を高めるとともに、教職員の危機管理能力を高める。	A	A	
	附属中学校との連携を図る。	教科会議や学年ごとの教科担当者で合同会議を持ち、中高一貫教育の教科指導における綿密な連携に努める。	B	B	
教育課程	学習指導要領の趣旨を生かし、基礎・基本の確実な徹底を図るとともに生徒の興味・関心・進路希望等に対応した教育課程を編成する。	これまでの進路実績を検証しながら、長期的課題の明確化と解決の方策の検討を進める。 生徒の学習状況の評価し、その結果を指導の改善や教育課程の改善に生かす（カリキュラム・マネジメント）。	A	A	A
		グローバル社会で活躍できる人材育成を目指した取組を進める。	A	A	
教科指導	指導内容や指導方法について工夫改善を行い、教科会議等で研究協議を進める。	各教科で目標を立てて公開授業、研究授業を実施し、研究協議を行うことで教科全体の授業改善を図る。	A	A	A
		生徒の情報活用能力の育成を図るため、各教科の中で情報教育を行う。加えてタブレット等のICT機器を活用した効果的な学習のあり方について研究を進める。	A		
	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善と評価	生徒の学習を促すため、指導のねらいに応じて授業での学びを振り返り、学習や指導の改善に生かす。	A	A	
	活発な読書活動、図書館利用を推進し、生徒の成長に寄与する図書館づくりをめざす。	適切な蔵書構築を通して本校の特色ある教育課程の充実に寄与し、生徒の学習を支援する。広報、展示、各種図書館行事を活性化し、生徒の知的好奇心や読書意欲を喚起する。	A	A	
特別活動	教育目標達成のために、ホームルーム活動の企画・運営を行う。	3年間を見通したホームルーム計画のもと、各学年・各分掌で具体的な年間ホームルーム計画を立案・実施する。	A	A	A
	生徒が学校行事等の取組において、主体的に活動できるように指導する。	生徒会を中心とした活動に適切な助言と指導を行い、文化祭・体育祭等において、生徒が積極的に参加し活動できるよう指導する。	A	A	
	部活動を活性化させる。	部活動顧問と教科担当・担任との連携を密にし、学習と部活動の両立を図る。	A	A	
生徒指導	生活規律の確立を図る。	生徒指導部を中心とした全教職員の指導により、校則・マナーを遵守させ、生徒の規範意識を高める。	A	A	A
	礼節を重んじる態度を育成する。	日常生活の中で、社会生活上のマナーを会得させ、心のこもった挨拶・適切な言葉遣いができるよう指導する。	A	A	
	生徒の日常生活の実態を把握し、問題行動・いじめを解決する。	問題行動やいじめについて未然防止に努めるとともに、問題事象が発生した際は事実を正確に把握し、迅速かつ適切な指導を行う。	A	A	
進路指導	キャリア教育の充実を図る。	3年間を見通した進路学習計画を作成し、進路指導部と各学年部が綿密に連携をとりながら、適切な時期に講演会やガイダンスを実施し、「進路ニュース」などを用いて効果的に情報を発信していく。	A	A	A
	生徒の学力状況や進路希望状況を分析し、教科や学年に課題を提示し、解決に向けて問題意識を共有する。	学力向上検討会議や運営会議等をととして、実力テストや模擬試験の結果を教科や学年と共有し、分析することにより課題を明らかにし、生徒一人一人の進路指導に役立てる。	A	A	
人権教育	組織的・計画的な人権教育を推進し、人権尊重の精神と他人を思いやる心を育成する。	道徳教育推進教師を中心に、道徳教育の推進を図るとともに、「京都府教育振興プラン」「学校教育の重点」を踏まえた人権教育推進計画を立案し、人権教育推進会議をベースに学校全体で組織的な指導に取り組む。	A	A	A
健康安全教育・環境教育	学校における健康安全教育の充実を図り、保健安全管理とその指導に努める。健康に対する自己管理能力を養い、基本的生活習慣を身につけた心身共に健康な生徒を育成する。	定期健康診断を実施し、生徒の健康状態を把握する。また、その結果や健康調査をもとに健康相談を行う。 性や心の教育の充実を図り、生命の尊厳を基盤とした人間教育のために、3年間を見通した健康学習などを充実させる。 自己の健康意識を高めるため、啓発活動として保健だよりなどの広報活動を行う。	A	A	A
	学校環境の整備と安全を確保し、美化に努める。	安心安全な学校環境の整備のため、環境衛生検査を定期的実施する。	A		
		生徒の美化意識の向上と清掃活動の活性化を図る。また、保健委員会を中心にプラスチック・雑紙などゴミの分別を徹底し、ゴミの減量化をはかる。	A	A	
教育相談	スクールカウンセラーと連携した教育相談の充実を図り、生徒状況の的確な把握に努め、関係教職員との連携も強化する。	課題のある生徒に対して早期に対応できるよう、定期的に教育相談会議や必要であれば特別支援教育会議を開催する。 課題のある生徒に対して、スクールカウンセラーや専門機関と連携・協力する。	A	A	A
		特別支援教育についての理解と認識を深め、また、関係教職員との連携を密にし、生徒の的確な把握に努めるとともに各生徒に応じた指導計画を立てる。	A	A	
		総合教育センター等を活用した研修や、校内での授業研究等をととして、計画的・組織的な研修を進める。	A	A	
施設・設備	学習環境充実のため、施設・設備等の整備を進め、その使用についての管理を徹底する。	施設・設備の整備及び適切な使用に努める。	A	A	A
	施設・設備の安全管理を徹底する。	施設・設備の日常の安全点検・定期点検を実施する。	A	A	
文書・情報管理	効率的な文書事務の徹底化を図る。	文書が適切に起草・作成され、関係の分掌等に回読された後、決裁・施行されるよう徹底する。	A	A	A
	通知・通達文書等の周知と各種情報等の共有を徹底する。	校内外で得られた必要な情報は、整理して教職員に伝達し、理解、活用されるよう配慮する。	A	A	
	個人情報の管理を徹底する。	情報ネットワークにおける個人情報の取扱いを適切に行う。	A	A	
家庭・地域社会との連携	同窓会・PTA・各種関係機関等との十分な連携・協力を進める。	全ての保護者にアンケートを依頼して学校評価を行う。 PTAの取組を通じて保護者との連携を密にする。	A	A	A
	広報を通じて、開かれた学校づくりを推進する。	「Classi」の活用や、ホームページの充実等により、保護者・地域・中学校等に本校の情報を発信し、教育内容への理解を深めてもらう。	A		
	SSH関係	スーパーサイエンスハイスクール（SSH）指定事業を推進する。 サイエンスチャレンジ、サタデープロジェクトを推進する。	SSHで開発したプログラムや研究内容について、その成果と手法の汎用化を図る。 サイエンス科以外へのSSH事業の普及と拡大を一層推進する。また、総務企画部と全教科との連携を深め、計画的・継続的な事業の推進を図る。	A	
国際化推進	海外研修、国際交流プログラムの周知、充実を図る。	総務企画部と各教科・各分掌との連携を密にし、各事業の周知や充実を図る。	A	A	A